

北陸石仏の会々報

伊勢信仰と雨宝童子

尾田 武雄

加賀藩の代表的な十村文書「川合文書」に「正徳二年九月堂宮社人山伏持分并百姓持分相守申品書上ケ申帳」がある。これを略して「正徳二年社号帳」と称されている。これは加賀藩寺社奉行の命を受けて、各村の十村（庄屋）がそれぞれ管下の堂宮を調べ郡奉行に提出したものである。その砺波郡に關するものが残さされている。これによると砺波郡には正徳二年（一七一二）の時点で、堂宮が七百六十五あり、そのうち神明あるいは神明林とされる伊勢系の堂宮が二百四十七社もあり、砺波郡全体の三十二パーセントを占めている。

伊勢信仰はめざましい展開をみせるのが近世に入ってからである。砺波平野は庄川扇状地であり、中小河川が多くあり、またその旧河川の開拓により新村や出村が多く出現した。中心部の出町や福野町は扇状地の扇央部に位置し、江戸時代初期に町立てがされている。

伊勢と志摩の境に朝熊山がある。海拔五百五十メートルで山頂には勝峰山金剛證寺がある。所在地は伊勢市朝熊町字岳である。ここは伊勢内宮に近く、内宮の鬼門に当たる峰続きであり、昔から俗に「お伊勢参らば朝熊をかけよ。朝熊かけねば片参宮」とうたわれ、神宮に参詣する人々は、併せてこの寺に詣でる慣わしがあった。金剛證寺には平安後期の作といわれる国指定重要文

化財の木造雨宝童子像が安置されている。修験者の信仰を受けてきたとされている。砺波平野には伊勢信仰に関わる「神明」が多いが、その御神体として雨宝童子の石像や木像が多くみられる。射水市周辺には絵馬に多く描かれている。これは修験者が伊勢信仰を金剛證寺とともに認識されてきたのであろうと思われる。



木像と石像は砺波市内の神社
絵馬は射水市白石の加茂社

第55号

平成30年8月10日発行

編集と発行

北陸石仏の会

(日本石仏協会北陸支部)

代表 平井一雄

〒939-1315

富山県砺波市太田

1770 尾田武雄方

電話 0763-32-2772

振替 00740-2-11974

(年会費 3000円)

- ・伊勢信仰と雨宝童子
- ・足立塚
- ・雨請堂の祭り
- ・越前の双体神像
- ・第56回例会報告
- ・第57回例会案内

足立塚

平井 一雄

一、足立塚

富山郊外、城山麓附近の公園の奥、呉羽山旧峠茶屋への登り口(五時谷)に人の背丈くらいの巨大な石碑がある。正面に『見日流和術元祖』『足立塚』と彫られ。背面には『天保十三年三月』の建立年月が刻まれ、他には細かく、多くの人名が記されるが、これは風化して余り読むことは出来なくなつてしまつている。

高さ一六〇cm、幅九二cm、奥行七〇cm

この石碑は現在、呉羽丘陵多目的広場に移送されている。

側面には漢文で以下の様な事が彫られている

「先生譚正保字平陸足立氏天和中 ■自飛州傳其術干某某嗣 ■聯綿不断今也恐其名滅謹而立石以不朽之云

池寄吉清 門弟中」

二、足立平陸正保

天和年間、美濃から飛騨を越え、越中富山に来富した一人の浪人がいた。彼は「四心多久間見日流和」という不可思議の技を遣う武芸者であるが。その超人的な法力は伝説にもなるほどのものである。江戸と飛州高山を二六時の間に行路し、稲穂の立った上を歩いたと迄言われる程身軽な技を体得していたと言う。その武士が藩主の客分として入り、乞われるままに藩士達に教授したのが伝教大師から伝米したという不思議な體術である。以後。その技が富山藩のみに伝流し、藩内に於いては武士のみならず、町人に迄伝播し武家、民間に係わらず多くの達人を輩出した。富山の売薬達が、全国行脚に於ける護身の法として体得し、その片鱗が全国各地で露顕し、越中富山の秘術として全国の武士から畏怖される存在となつたと言われる。富山に伝

わる起倒流、天神真楊流、戸田流等は、維新以降伝承者に人を得ず。全て滅びて仕舞つたが富山藩独自の柔術流儀、足立平陸が伝えた謎の体術、四多久間見日流のみは脈々と今日まで伝承されていた。

参考文献

富山県柔道史 昭和四十五年九月発行

三、四心多久間見日流和の意味

四心多久間見日流和という長い流名であるが、この流儀の解説によれば、四心とは東西南北のことであり、多久間とは例えば東と西との隅、また南と北との隅ということ、四心多久間とは体に隙のないことをいうのである。また見日とは一心を明かにすることであつて、つまり判り易い、身体には四方八方隙がなく、心は明鏡止水の如く一点のくもりもない、明かなことを理想とする流儀の「やわら」ということである。元祖は平安朝時代伝教大師が、僧兵育成にこの四心多久間見日流をあみだされたという。

参考文献

富山県柔道史 昭和四十五年九月発行

四、四心多久間四代見日流和傳

當流ハ傳教大師ヲ始祖トシ 足立平陸ヲ中興トス

傳來 足立平陸正保

飛州高山二住居浪人也故有テ不動尊

ヲ祈リ夢想ヲ蒙リ流儀ヲ取ツ由數多ノ

門弟ノ中ニ渡邊繁正一人ヘ印可ヲ

授ク依之余國ニ之流義ノ正統ナキ由且平陸

者(ハ)高山ヨリ一日ノ中ニ江戸ヘ参リタル由早道

ニテ稲穂ノ立チタル上ヲ歩行キタル程ノ身軽

キ業有リタル由併シ是ハ妖術故附与シテハ

却テ身之為ニ不成ニ依テ傳ヘ不申旨



足立塚の左側面



五時谷時代の足立塚

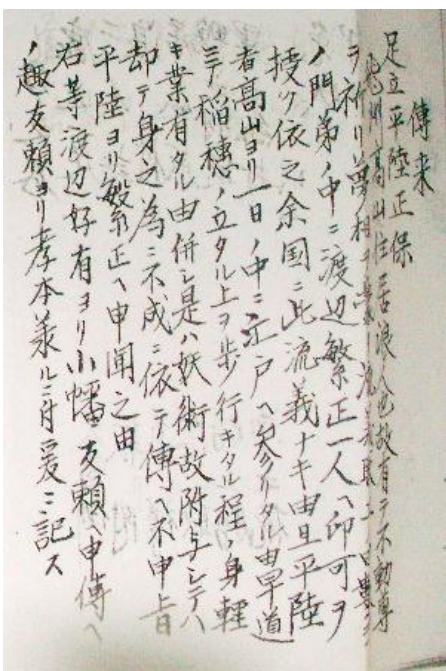
平陸ヨリ繁正へ申間由
右等渡辺好有ヨリ小幡友頼へ申傳へ
ノ趣友頼ヨリ孝本承ルニ付爰ニ記ス
参考文献
諸藝雑誌 拾参卷 抄
高岡彌平義孝先生武術略傳 私家版



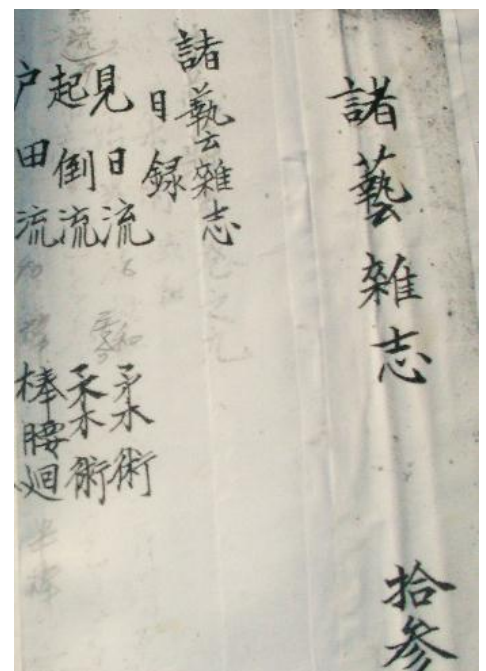
「祐崙田森 工石」



呉羽丘陵多目的広場の足立塚



諸藝雑誌 拾参卷
傳來 足立平陸正保



諸藝雑誌 拾参卷 目錄
見日流 柔術

雨請堂の祭り — 福井県あわら市滝 —

滝本 やすし

六月十七日に、福井県あわら市滝の雨請堂で祭礼が行われた。雨請堂は白山神社の境外堂で、集落南はずれの雨請山の山頂付近に建てられている。登り口の案内板に、次のように書かれている。(一部省略)

「この雨請堂は、丸岡城主有馬藩の時代に旱魃で稲が枯れそうになったので、滝をはじめ近村の百姓が、この山を雨請山と称えて青柴の干把焚きをして煙をあげ、太鼓を打ち鳴らして龍王の眠りを目覚まし、神職と共に祈りをしたところ、三日目に小雨があり、七日目に大雨が降って、その年は大豊作になった。それからこの山を雨請山と称して八大龍王を祀り、六月十七日を祭日としている。」

雨請堂は三間四方の木造で、内部には石造の雨請の神様が祀られている。中央に不動三尊が祀られ、その左右に八大龍王を四体ずつ配している。堂の内壁に「昭和拾四年／八月貳拾参日午后／雨乞初め當邑」の墨書きがみられることから、昭和二十三年の福井地震に耐えたものであることがうかがえる。現在は左から「滝雨請堂」と書かれているが、以前は右から「滝雨乞堂」と書かれていたそうである。

堂内の右端には不動明王像が立てかけられており、福井地震の際に倒壊したのであろうか台座や光背などが大きく破損している。堂の中央に祀られている不動明王は、この像を模して新しく作りなおされたものである。八大龍王が彫られた四基の石板の前面に「奉造立／八大龍王五穀成就氏子安全所」と刻まれ、裏面には「越前坂井郡瀧村／惣氏子中／敬白／享保十二丁未年／仲秋吉日」と石屋(石工)二名と施主等の人名が刻まれている。八大龍王が彫られた四基の石板は、いずれもほぼ同じ銘文である。また不動の脇侍の裏面にも同じく享保十二年の銘があるので、これらの石像は同時に作られたものである。

祭礼は午前十時から行われたが、八時頃から当番の人達が白山神社に集まり、準備に追われていた。滝の集落は、大滝、水滝、平滝、的場の四地区に分かれており、それぞれの地区が二つの班で構成されている。今年の祭礼の当番は的場地区であった。

雨請堂へは麓から急な坂道を歩いて登ると十分余りかかるのだが、祭礼の時には林道入り口の鎖が外される。地元の方のトラックに乗せていただいて雨請堂へ向かった。当日は日曜日で、好天に恵まれたこともあって、例年の倍以上にあたる三十名ほどが参拝に訪れた。

雨請の神様の前に、献上酒、塩、水、野菜、御神酒、洗米、鏡餅、するめ、昆布、果物が供えられた。金津神社の齋藤宮司により、大祓詞と雨請の祝詞が述べられた。その後参拝者が順番に玉串を捧げた。神事終了後は参拝者に御神酒がふるまわれた。以前は太鼓をたたいて賑やかな祭りだったそうであるが、現在では太鼓をたたく人がおらず静かな雨請祭りとなってしまった。



上：祭礼の準備

下：祭礼の様子





雨請堂の内部（中央が不動三尊、一石に2体ずつ八大龍王が彫られている、右端はもとの不動明王）



跋難陀龍王

難陀龍王



阿那婆達多龍王

徳叉迦龍王



優鉢羅龍王

摩那斯龍王



和修吉龍王

娑羯羅龍王

越前の双体神像

滝本 やすし

福井県越前地方の神社の境内等に、一石に二体の神像が浮彫りされた石龕などが十基ほど確認される。そのほとんどは稚拙であり、男神であるか女神であるかを確認できない。しかし、あわら市北潟東路傍、あわら市谷畠常盤神社、坂井市坂井町島春日神社の三基は、はっきりと男神と女神であることが確認される。また、あわら市北潟東路傍の双体神像は、石室前面の左右の柱に「奉建立愛乃御神石室／施主」「干時永禄八年（一五六五）五月吉日」と刻まれている。他の双体神像のほとんどは稚拙で銘文はみられず、造立の経緯や年代を特定できない。

越前の双体神像一覧

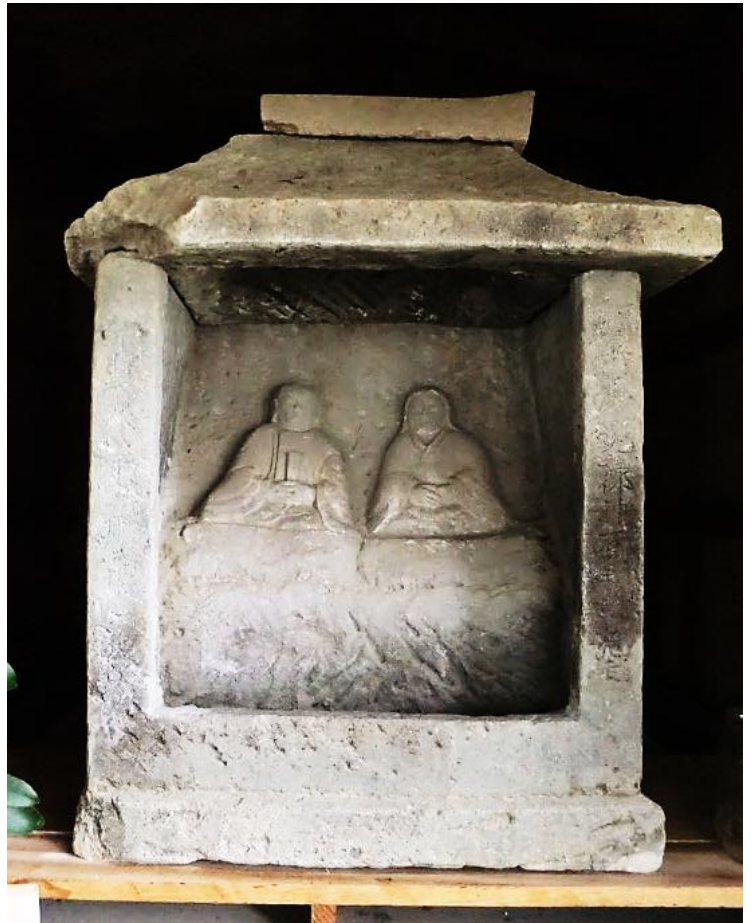
- ・あわら市北潟東 路傍 男女並座 永禄八年（一五六五）
- ・あわら市谷畠 常盤神社 男女並座
- ・坂井市三国町玉ノ江 春日神社 並立
- ・坂井市坂井町島 春日神社 男女並座
- ・坂井市春江町高江 住吉神社 並座
- ・坂井市春江町西長田 長田神社 並座
- ・福井市殿下町 天満神社 並座
- ・福井市河内町 白山神社 並座
- ・越前町佐々生 路傍？（文献資料による）
- ・南越前町東大通 羽太神社 並立



坂井市三国町玉ノ江 春日神社



坂井市春江町高江 住吉神社



あわら市北潟東 路傍 永禄8年(1565)

第56回例会報告 — 福井市の石仏めぐり —

長谷 かおり

今回の訪問先は福井の中心に位置し市民の散歩コースとして親しまれる足羽山から、一乗谷城の山城である横山城の城下町東郷まで。お天気にも恵まれ、美しい新緑を眺めながらの気持ち良い石仏めぐりとなりました。今年は豪雪で、ずっしりと重い雪に心まで覆い被されたような冬を過ごしましたので、ようやく訪れた春がいつにも増して嬉しく感じます。

足羽山の山腹には数多くの神社仏閣が点在していますが、まず最初に訪れたのが白山神社。鬱蒼とした樹々に覆われた崖の袂に、身を寄せるように小さな石祠がいくつも並んでいます。中央が白山神社で、中に納められている石板には、そそり立つ山の頂に白山三所権現が座している姿が綺麗に彫られていました。両脇には神明神社や八幡神社などが合祀されています。菅原神社には線彫りされた福々と愛らしい渡唐天神も拝見できました。神秘的な空気が流れる一角で、静かでありながらずっしりとした力を感じます。

背の低い鳥居はありますが社殿はありません。そもそも神社とは本殿に納められた御神体をお祀りする所であり、拝殿がないのはむしろ本来の姿なのだとか。なるほどこれは私にとつて、今回一番大きく気付かされた点でした。この地に住む人々の想いが集って萬延元年（一八六〇）に建立され、現在まで神社庁に属さずに町内で大切に管理されているのだそうです。小さくも美しい山の神々は、今も地元の人々と静かに心を通わせているように見えました。

足羽山を後にして、巻物を啜えた狛犬に出会えた江端町日吉神社、泰澄大師生誕地の伝説がある三十八社町泰澄寺に立ち寄りながら東郷地区へ向かいます。

東郷は朝倉氏、長谷川氏にゆかりのある寺院が点在する城下町で、山間の小さな町でありながら宿場として栄えた当時の面影が残っています。永昌寺

（通称しもでら）は朝倉孝景の妻の菩提寺、隣接する霊泉寺（通称かみでら）は長谷川秀一の墓標があります。こちらでは仏足石も拝見できました。通りを隔てた所にある稲荷神社は長谷川秀一の産土神様で、大変立派な社殿の脇にもう一つの小さな稲荷社があります。その参道脇に無造作に立て掛けてあるたくさんの石板にも仏像が彫られていました。

すぐそこの一乗谷まで足を運びたくなる気持ちを抑え、今回の例会は終了です。貴重な会に参加をさせていただき、またこの会を企画、案内してくださった方々にも感謝申し上げます。どうもありがとうございました。



福井市毛矢3丁目の白山神社にて記念撮影

北陸石仏の会 第57回例会

—津幡町の石仏めぐり—

平成30年9月16日(日)

参加費：6000円（バス・資料代）

集合場所：①JR砺波駅南口……………7時40分

②道の駅倶利伽羅源平の郷……………8時20分

③IRいしかわ津幡駅……………8時30分

申込方法：次の事項を記入の上、ハガキでご連絡ください。

住所、氏名、電話番号(携帯電話も)、集合場所

申込先：〒939-1315 砺波市太田1770 尾田武雄方 北陸石仏の会事務局

締め切り：平成30年9月5日(水)

案内：滝本やすし(石川県金沢市)

見学予定

◎津幡町竹橋 浄土宗有聲寺／地蔵、馬頭観音、水天、徳本名号塔、義賢名号塔

◎津幡町杉瀬 路傍／猪塚

◎津幡町杉瀬 八幡神社／逆さ狛犬

◎津幡町北中条 三輪神社／如来形座像陽刻板碑、地蔵、不動明王

◎津幡町加賀爪 延命地蔵堂／地蔵、六地蔵

◎津幡町加賀爪 白鳥神社／天満自在天神(菅原道真)

◎津幡町津幡 路傍／弘法大師

◎津幡町清水 三昧地蔵堂／阿弥陀、六地蔵

◎津幡町庄 地蔵堂／釈迦、地蔵、六地蔵

◎津幡町横浜 共同墓地／義賢名号塔

◎津幡町下矢田 諏訪神社／五輪塔、聖観音

◎津幡町上大田 路傍／半跏地蔵

◎津幡町八ノ谷 路傍／聖徳太子

◎津幡町八ノ谷 路傍／地蔵、観音、勢至

◎津幡町鳥越 大国主社(弘願寺跡)／宝塔

◎津幡町津幡 平知度首塚／義賢名号塔

◎津幡町倉見 真宗大谷派祐閑寺／親鸞

◎津幡町倉見 地蔵広場／阿弥陀、地蔵、六地蔵

◎津幡町倉見 路傍／徳本名号塔、義賢名号塔

◎津幡町倉見 路傍／「祇園」「山神」

[諸事情により見学先を変更する場合があります。ご了承ください。]